

平成25年度 第7回 砂川市地域公共交通会議

日時：平成26年3月27日 午後2時から

場所：砂川市役所 大会議室

出席者：

区 分	所属・役職	氏 名	備 考
会長 (1号委員)	砂川市 副市長	角丸 誠一	
副会長 (2号委員)	北海道運輸局札幌運輸支局 首席運輸企画専門官	工藤 正弘	飛澤 麻希
4号委員	北海道中央バス(株) 空知事業部業務係長	尾形 崇士	
	砂川北星ハイヤー(株) 常務取締役	天保 和雄	
	三星ハイヤー(株) 営業部長	梅野 恒夫	
監事 (7号委員)	砂川市町内会連合会 副会長	高村 雄渾	
	砂川市社会福祉協議会 副会長	尾崎 隆男	
7号委員	砂川市老人クラブ連合会 会長	鈴木 日出男	
8号委員	砂川市 総務部長	湯浅 克己	
	砂川市 建設部長	金田 芳一	
9号委員	北海道空知総合振興局 札幌建設管理部滝川出張所所長	渡辺 富雄	
	北海道札幌方面砂川警察署 交通課長	山本 克己	

欠席者：

区 分	所属・役職	氏 名	備 考
3号委員	北海道空知総合振興局 地域政策課長	池田 和明	
3号委員	ふじ観光(株) 代表取締役	出村 省三	
5号委員	札幌地区バス協会 (社)北海道バス協会常務理事	今 武	
6号委員	北海道地方交通運輸産業労働組合 協議会 副議長	阿部 敏彦	
8号委員	砂川市 市民部長	高橋 豊	
9号委員	北海道開発局札幌開発建設部 滝川道路事務所所長	山崎 達哉	

事務局：

区 分	所属・役職	氏 名
事務局長	砂川市政策調整課長	熊崎 一弘
事務局	砂川市政策調整課長補佐兼企画調整係長	畠山 秀樹
	砂川市政策調整課企画調整係主任	米谷 和敏
	砂川市政策調整課企画調整係主事	大友 健司

1. 開会

事務局長

2. 挨拶

→会長より会議を代表し挨拶をした。

会 長： みなさま、大変お忙しいところ、公共交通会議にご出席賜りまして、誠に有り難うございます。本日は平成25年度の会議としては、第7回目の交通会議となります。前回の2月27日の交通会議では、2月の実証調査運行の結果が出ておりませんでした。ネットワーク計画を策定していく上で、構成等をイメージして頂いたところでございます。

本日の会議では、2月実証調査運行の結果が整いましたので、後ほど事務局からご報告申し上げますが、昨年9月の実証調査運行の利用者と合せると、コミュニティバスでは691人の利用、予約運行型乗合タクシーでは53人の利用となりました。利用者数としては、予想していた人数よりは少ない結果となっております。

本日の会議においては、この他にも地域説明会で挙げられた市民の意見も踏まえまして、交通ネットワーク計画の方向性を考えていきたいと思っております。この方向性については、これまでも会議で議事に上がっておりました本格運行するのであれば、コミュニティバスであるのか、それとも予約運行型乗合タクシーなのか、あるいは本格運行が困難と判断されれば再度検討するといった、3つの選択肢がございます。

本日は、2月実証調査運行結果や市民説明会で挙げられた意見、交通会議でのご意見を踏まえ、この計画の方向性を導いていきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見を賜りたいと考えております。

どうぞ、よろしく願い申し上げます。

3. 報告事項

(1) 2月実証調査運行の結果について

→ 事務局より、資料1に基づき説明した。

【質疑応答】

なし

4. 協議事項

(1) 平成25年度砂川市地域公共交通会議補正予算（案）について

→ 事務局より平成25年度砂川市地域公共交通会議補正予算（案）について説明した。

【質疑応答】

なし

(2) 砂川市生活交通ネットワーク計画素案の検討について

→ 事務局より、資料2、資料3に基づき砂川市生活交通ネットワーク計画素案について説明した。

【質疑応答】

会 長： 事務局からの説明ですと、平成25年9月と平成26年2月に新たな公共交通であるコミュニティバスを運行させましたが、利用者としては、691人、1便当たりでは0.8人であり、空便での運行が57%という状況でありました。コスト的にも負担が大きいため、コミュニティバスでの運行は厳しい状況にあります。また、予約運行型乗合タクシーの導入においては、効率的かつドア・ツー・ドアで利便性が高い公共交通となっておりますが、なかなか利用者は伸びない状況でありました。「予約するのが面倒」という意見もありましたし、どこから乗車しても運賃が500円というのは、まちなかから離れた住民にとっては、運賃が安いかもしれませんが、まちなか付近の住民にとっては「運賃が高い」といったものとなっております。このように、それぞれ一長一短がございます、今回の実証調査運行のみでは、どの公共交通を導入するのかを判断するのは、難しいものとなっております。

しかし、高齢化の進行等の社会情勢変化を鑑みると、なにかしらの導入を考えていかなければならないと考えております。ネットワーク計画を策定していく中で、本格運行に向けて、なにを導入するか検討しなければならないと思います。

また、砂川市には、路線バスも運行しておりますし、ハイヤー会社もございます。そのような中で、どの交通手段を導入しても、他の交通機関と競合する可能性がございます。しかし、その競合関係にどこで線引きをするのかということも問題の一つになります。

このようなことも含めて、委員の皆様からご意見はございませんでしょうか。

委 員： 2月の実証調査については、コミュニティバスと予約運行型乗合タクシーを運行したのですが、今後は導入を前提とした調査ではなく、利用状況等を踏まえて、どちらか一つもしくは両方導入という方向性で検討していくのでしょうか。

事務局： 平成25年9月と平成26年2月に実証調査運行を行った目的としては、北エリア、南エリアそれぞれにコミュニティバスと予約運行型乗合タクシーを体験して頂きたいという部分とどの程度の需要があるのかという部分を複合的に検討するために、調査を実施致しました。この1年間は、実証調査における利用状況を鑑み、どちらか一方もしくは両方の複合的な導入を検討して参りました。

結果的には、いまずぐ本格運行するには、時期尚早であるという判断に至りました。今後も検討を継続していく中で、実証調査等を行い公共交通のPRをしていきたいと考えております。

会 長： 公共交通の必要性があるのは理解しております。実態として、市を半分にして、コミュニティバスと予約運行型乗合タクシーで、2月はそれを入れ替えて運行をし、どの程度の需要があるのかについて、調査を実施し只今結果が出た次第でございます。

確かに交通弱者はおられますが、利用人数 691 人というのはあまり多くはない印象を受けます。このようなことから、事務局としては、もう一年間は検討を継続していきたいという提案をしたところでございます。

委 員： 実証調査を行った以上、運行された地域の方には、ある程度情報公開をするべきではないでしょうか。また、今回の協議会では 2 月実証調査の結果を基に、今後どのような公共交通を導入すべきという議論を行う場でよろしいでしょうか。

会 長： 事務局の考えとしては、継続して検討を行うという考えでございます。

事務局： 実証調査運行を行う地域住民に対して、地域説明会を実施しておりまして、その中でも本格運行はどうかといった声も多く挙げられておりました。国の補助金を利用しながら、本格運行に向けた検討を行っている旨や、本格運行は早ければ本年 10 月からという話もさせて頂きました。しかし、実証調査運行の結果次第では、もう少し検討を継続させて頂きたいということも話させて頂いております。

ネットワーク計画の中で、どの公共交通を導入すると明記できれば、10 月から本格運行を行うというのは可能ではございます。しかし、利用状況を鑑みると時期尚早でございますので、本年 10 月からの運行は見送る考えでございます。

ネットワーク計画が承認された後には、再度実証調査を行い、検討をして参りたいと考えておりますし、実証調査運行を行う際には、地域住民向けに説明会を開催させて頂きます。

会 長： 平成 25 年 9 月と平成 26 年 2 月に実証調査運行を行った際、地域住民の皆様から実証調査運行を実施しているのが、伝わっていないというご指摘も受けております。今後はいろいろな媒体を利用して周知徹底を進めていく所存でございます。

委 員： 平成 26 年度は検討していくということで理解しました。平成 26 年度から平成 27 年度にかけて、今回のような実証調査運行は行わないということによろしいでしょうか。平成 25 年度で実証調査運行を実施してきて、住民や利用者の認知度が高まってきているが、平成 26 年度以降、実証調査運行を行わないのであれば、認知度は低下するのではないのでしょうか。

事務局： 平成 25 年度は 2 回の実証調査運行を行わせて頂きました。ご指摘の通り、少なからず認知度は高まってきていると感じております。今回の生活交通ネットワーク計画の中で「検討」をうたっておりますが、実証調査運行を行っていないと、なかなか検討が進まないという背景もございます。

そのことから、平成 26 年度中に再度実証調査運行を行う考えでございます。

会 長： 調査は来年度も継続してやるという考えでございます。

委 員： 今後実証調査運行を行う中で運行方法等の絞れる部分は絞って検討をしていくのがよろしいと思います。

事務局： 今の段階でどの交通手段を導入するのかを決定するのは難しい状況です。しかし、今年度2回の実証調査運行を行い、その結果を活用しながら今後は検討していく考えでございます。

定時定路線のコミュニティバスは、運行方法のわかりやすさ等から利用者が予約運行型乗合タクシーよりも多くなっておりますが、運行費用等から考えると、利用者は少ないという印象を受けております。また、1便当たりの利用者数についても、1人を切るような状況ですので、運行は困難かと考えております。

一方で、予約運行型乗合タクシーは玄関の前まで車両が来ますし、利用者にとって非常にメリットがある運行形態となっております。しかし、利用者はあまり伸びなかったという背景もあることから、今後の実証調査運行を行う中で、検討して参りたいと考えております。

会 長： 運行費用を考えますと、身の丈にあった最低限のサービス提供を考えて参りたいと思っております。

委 員： 今後の検討は国の補助金が出るからやるのか、それとも住民ニーズがあるからやるのか、色々と複合的になっているとは思いますが、もしコミュニティバスで中型バスを利用して思ったよりも採算性があがった場合、国の補助金はないのでしょうか。

事務局： コミュニティバスを運行し、もし黒字となった場合については、国の補助金は出ません。

委 員： そのこのところを踏まえると、便数を減らして最低限のサービスを賄うのかといったあいまいな点がすごく多い印象を受けます。今回実証調査運行をやってみて、国道から少し離れた場所にお住まいの高齢者の方にとっては、すごく良いのかなと思います。今後も高齢の方は増加していきますので、このような新たな公共交通の導入は必要なものとなってきていると思います。全体のことを含めて考えると、どのような公共交通を確保すべきなのかといった部分に疑問があります。

会 長： 砂川市には総合計画がございます。この計画では移動手段の確保がうたわれておりまして、市として公共交通事業に取り組んでいこうとしております。また、進めていく中で、たまたま国の事業として補助金が出る枠組みがあるので利用したという背景です。高齢化が進んできていの中で、国の補助金がなくとも取り組むべき課題として認識しております。

事務局： 国の補助としては、公共交通の確保に係る調査として受けております。これ以降、本格運行に係る赤字運行の補助として受けることは可能です。そのことから平成26年度以降の検討としては、国の補助を受けることはできなく、市の単独の事業として行っていきます。

本格運行について、黒字で運行できるのであれば、交通事業者に任せたいとは思っておりますが、なかなか黒字の運行は難しい部分であり、限りなく赤字に近い運行になると思っております。この場合、市が運行させるのが最良の選択であり、できる限り市での負担というのも少なくすべきと考えております。したがって、国の補助を受けることができる場合は補助を受け、市の財政負担をなるべく抑えるためにも、もう1年間検討を継続していきたいと考えております。

委員： 交通事業者としては、国の補助金の交付は1年半かかるので厳しい状況になります。また、民間企業が1年半給料を支払うことができないというのは通常考えづらいです。そのところはどのようにお考えでしょうか。

事務局： 国の補助金は運行後に交付されることから、最悪1年半後に補助金が交付となります。それは、市で何らかの方法で対応したいと考えております。

会長： 計画は3年計画で平成26年度の計画が終了後、計画を見直し変更していくというものです。計画の内容について、平成26年度は「引き続き検討」としてよろしいでしょうか。

→ 承認

5. その他

→ 事務局より今後のスケジュールについて説明した。

事務局： 次回の会議については、来月4月下旬に開催を予定しております。内容については、平成26年度に予定する実証調査運行の内容について、ご協議いただきたいと考えております。

その後、本日、承認いただきました砂川市生活交通ネットワーク計画素案のパブリック・コメントを実施し、市民意見をいただいた中で計画素案の修正を行い、5月下旬に第2回会議を開催し、本計画として承認をいただきたいと考えております。

また、実証調査運行については、早くて秋ごろになるかと思いますが、2、3ヵ月程度実施し、その結果を基に、再度、計画についてご協議いただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

まずは、来月下旬に会議を予定しておりますので、お忙しいこととは存じますが、よろしくお願ひいたします。

【質疑応答】

なし

6. 閉会

会長